

# 地域のかお シリーズ79



## 「学校でも家でもない「第三の場所」」

旭町児童クラブ

主任 清水 望美

はじめまして。旭町児童クラブの主任をしております、清水望美と申します。今年の1月で旭町児童クラブに来て10年目になりました。はじめの頃は「おねえさん」に見えていた(?)私も、今では子どもたちに「おばさん」「ババア」と言われるようになり、時の流れを痛感しています。児童館だよりの裏面を書かせていただくのは初めてなので、つたない文章で大変恐縮ですがお読み頂ければ幸いです。

さて、子どもたちは児童クラブで、日々様々な姿を見せてくれます。懸命に宿題に取り組む姿や、友だちと全力で遊び、たくさん笑う姿に、私はいつも元気をもらいます。しかし時にはびっくりするような姿を見せることもあり、手のかからないと思っていた子どもが、問題行動を起こしたりすることもよくあるのです。

数年前、子ども同士のトラブルがあった時に「僕は学校では良い子で居るし、家でもお兄ちゃんではないといけない。だから児童クラブで発散するんだ。」と私に伝えてくれた児童がいました。

はじめは驚きましたが「勉強を頑張りたい。」「友だちと楽しく過ごしたい。」「先生に褒めてほしい。」「親からの愛情をたっぷり受けたい。」と、学校や家で期待に応えるために背伸びをし過ぎていた分、児童クラブが発散の場になっていたようです。それがダメだと分かっている、自分の思いのままに過ごすことで、バランスを保とうとしていたのかもしれない。

この子どものように大人から見て「お利口さん」に見える子でも、その子なりにいろいろな問題をもっています。子どもはどの子も発達途上で、色々な悩みや不安を抱えながら成長していきます。したがって私は『児童クラブだ



からこそ見せられる姿』を大事にしていきたいと考えています。もちろん誰かを傷つけるようなことは絶対にはいけません、等身大の自分を受け止めてくれる場所が1つでも多くあることが、子どもたちの活力の何かのきっかけになればと思っています。

旭町児童クラブでは13年間「セカンドステップ」という“子どもたちが楽しみながら対人関係や社会への適応力を学ぶプログラム”を実施しています。自分の感情を上手く言葉で伝えられず手が出てしまったり、怒った気持ちを落ち着かせることが苦手だったりする子がとても増えているので、問題を解決するためのスキルを伝えるレッスンです。

何かトラブルが起こった後、話をしっかりと聞いてみると「ほー！そんな理由があったのね！」と子どもならではの考えに驚かされ、大人にとっては自己中心的な考えでも、子どもは子どもなりに考え、行動しているのだなと感じます。セカンドステップの内容をヒントにしなが、どのように気持ちをコントロールするのか、相手に手を出さず、どう言葉で伝えたらいいのかを一緒に考え、解決策を見つける力を伸ばして欲しい、そして困難に立ち向かう力を少しでも身につけて行って欲しいと思い、話をしているところです。具体例をあげると「怒った時はまず、3回深呼吸をして落ちつく」というスキルを活用し、怒った時に「ふうー。ふうー。」と深呼吸している様子を見かけます。落ちついた後、自分の気持ちを話し、解決をしているようです。

先日、児童クラブを卒会した子どもと道ですれ違った時、「先生！」と声をかけてくれる子がいました。このように児童クラブで出会った子どもたちの成長を見られることがとても嬉しく、私の活力にもなっています。

親御さんとも情報共有をしていながら、子どもたちが楽しく過ごせるよう、今後も支援できれば幸いです。何かあれば、いつでも何でもお声かけください。

